

5件の有形文化財を市指定に

それぞれが歴史的価値の高い史料

市有形文化財に指定した書跡4件は、富士市域における近世社会を解明するのに極めて歴史的価値の高いもので、市史編さん等の市史研究作業には欠かせない史料です。

それぞれの特色として「田子のふるみち」は、東海道吉原宿の変遷過程を詳細に記録し、松岡瑞林寺、森島法田寺の両禅寺記は新田開発を通じ、地域社会の発展努力の足跡を如

実に伝えています。
また、今泉村邑宝鑑^{むらかがみ}は、近世今泉村の村落構成がよくわかり、市域の村落共同体の把握と分析に役立つものです。

いずれも保存状況がよく、永久保存していきます。
一方の考古資料、比奈医王寺出土の経塚遺物は、平安末期に埋納したものであり、古代、中世史料の比較

的乏しい富士市としては貴重な存在です。

これまでに市内における経塚発見例は1例ありますが詳しいことは不明です。したがって、平安末期の埋経思想をうかがい知る現存遺物として、歴史的価値の高いものです。これも保存状況がよく、永久保存していきます。



名称 紙本墨書 稿本「田子のふるみち」(森家本) 1帖

所在地 荒田島127番地の1
吉原宿住人、姉川一夢が享保18年(1733)に著わした地誌で、延宝8年(1680)8月の大津波による吉原宿所替の様子を中心に、前後3回にわたる吉原宿の変遷、吉原湊の歴史、浮島沼の開発などが書かれています。



名称 紙本墨書 福寿山瑞林禅寺記1帖
所在地 松岡489番地

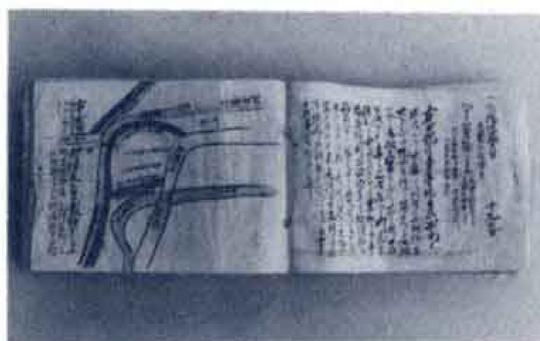
瑞林寺の開山鉄牛道機(1628~1700)が、元禄9年(1696)に著わしたもので、瑞林寺開

創の事情と経緯が詳しく書かれ、富士川治水と加島新田開発に全生涯を費し、悲願の雁堤築堤を完成させた古郡親子と鉄牛との密接な親交関係や新田開発の並々ならぬ苦難が理解できる貴重なものです。



名称 紙本墨書 高林山法田禅寺記 1巻

所在地 森島191番地
貞享元年(1681)、空谷如印和尚によって書かれ、森島地区の開発に努力し、法田寺を開いた高沢道喜の功績が記されています。



名称 紙本墨書 今泉村邑宝鑑1帖
所在地 今泉7-12-36

邑宝鑑は、江戸時代の今泉村の様相を知る極めて重要な史料で、支配領主の変遷や田畑、村高、年貢米の推移が理解できます。また、田畑を潮水害から守る堤防の構築、整備や新堀等の用水路の開削など地域開発の一端もわかるものです。



名称 医王寺経塚遺物
所在地 比奈1546番地

昭和9年出土の比奈医王寺経塚遺物です。
経塚は、末法思想の影響により、平安時代後期に当時の人たちが盛んに写経し、埋納したもので平安末期の埋経思想を知るのに貴重な史料です。